



校友さんしや

2022
Winter
2022年
1月1日発行

迎春
Vol.
56



特集

さんしゃびと 石田 賀奈子先生

現在、社会学研究科に在籍する
現役大学院生ご紹介！

産社校友のお店紹介
信州更科蕎麦処 築地さらしな里

同窓会開催補助(特別措置)のご案内 ~オンラインでの同窓会にも開催補助を行います~

内 容

引き続きコロナ禍の影響により、対面での同窓会開催が難しい状況が続いていますが、Zoom等のオンラインツールを用いてWeb同窓会を開催されるケースも増えてきました。そこで、産社校友会では「同窓会開催補助(特別措置)」を設け、当面の間支援を実施することといたしました。

対象となる同窓会

6人以上(教員参加可)が参加する小集団クラス(基礎演習、プロジェクトスタディ、演習、専門演習、卒業研究)の同窓会。担当教員の承認を条件としますが、教員への連絡不可等の事情がある場合は事前にご相談ください。小集団クラスでない友人同士の集まりなどは対象外となります。

対象となる経費

同窓会開催案内の郵送料、オンライン開催に必要な経費(アカウント料やサポート費用等)。



補助金額

参加者数	補助内容
6~50名の場合	1人1,000円、かつ1同窓会25,000円上限
51~100名の場合	35,000円
101名以上の場合	50,000円

※オンライン同窓会に関する補助は対面企画の半額となります。

申請方法

開催1か月前までに、産社校友会事務局宛に所定の申請書を郵送で提出いただく必要があります。詳細については、産社校友会ホームページをご確認ください(様式もダウンロードできます)

ご確認ください

- ① 開催後補助金申請の折には、開催報告書や写真(画像)撮影など、作成・提出をお願いする資料があります。
- ② 対面、オンライン併用のハイブリット型の同窓会開催も補助対象となります。

※詳細はホームページでご確認いただくか、事務局までご連絡ください。 <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/sub/sub.html>

産社の先生が書かれた書籍のご紹介

『スポーツとナショナリズムの歴史社会学—戦前=戦後日本における天皇制・身体・国民統合』(単行本)



教授 権 学俊 先生(単著)

ナカニシヤ出版 2021/3/10発売 3,520円

(概要)100年以上前からのスポーツイベント・政策の記述・考察から、戦前と戦後の連続性を示し、日本におけるスポーツと国家権力との関わりを、私たちの身体と地続きの権力を問い直す。「ポピュラーナショナリズム」の重要な一環であるスポーツ・ナショナリズムの分析を通して、スポーツや身体管理政策が近代日本社会に及ぼした影響を、日本人の生活や国民意識に及ぼした影響を、創出し、どのような「烙印」を残したのかを、複合的アプローチをとることで多角的・総合的に考察する。

『子育て罰「親子に冷たい日本」を変えるには』(光文社新書)



准教授 桜井 啓太 先生(共著)

光文社 2021/7/13発売 価格1,012円

(概要)働く親を視野に入らずに発せられた突然の一斉休校、こども庁の政治利用、高所得層の児童手当打ち切り、年少扶養手当廃止、教育費無償化や奨学金における所得制限の撤、9月入学シフト、50%を超えるひとり親貧困率……。子どもと親が生きていることに「罰」を与えているのが、いまの日本社会である。子育てで「罰」ではなく「ボーナス」としなければ、日本の少子化は加速するばかり。すべての子どもが幸せに生み出される社会の実現のために今できることが、本書にすべて書かれている。

『多様化時代の社会科授業デザイン』(単行本)



教授 角田 将士 先生(共著)

晃洋書房 2020/12/20発売 3,630円

(概要)子どもの社会性を伸ばし、変動する社会に適応し発展させる力を育成する、社会科教育の考え方と授業のデザインを紹介。研究と実践の輪につながる鋭敏な研究者・現職教員たちによる、社会科に関連する授業デザイン研究書。幼児・初等教育、歴史教育、公民教育、市民性教育、授業方略という幅広い領域から視点を提供し、多様化する時代における社会科授業のあり方を問う。

『いまを生きるための社会学』(単行本)



教授 樋口 耕一 先生(編著)

丸善出版 2021/1/16発売 4,180円

(概要)2020年代を迎えた現在、インターネット以降のテクノロジーやスマートフォン、SNSの21世紀という時代を、我々はどう生きればいいのか?格差や犯罪など従来からの社会問題に加えて、科学技術の進歩、例えばAIや生殖医療なども、新たな社会問題を我々に突きつけている。こうした疑問に答えるには、結局、望ましい社会のあり方を考えるをえない。その道しるべとして社会学の基礎的な考え方から、家族・災害・グローバル化などの各論まで、専門家が平易に解説する。1テーマ2頁または4頁見開き完結の教養読本。

『クリティカル・ワード メディア論 理論と歴史から(いま)が学べる』(単行本)



准教授 飯田 豊 先生(共著)

フィルムアート社 2021/2/26発売 2,420円

(概要)今やグローバル資本主義と政治的分断の加速は前提となり、メディアを取り巻く社会や文化、私たち人間の状況は、かつてないほどの大きな変化にさらされている。「メディア論」は常にアップデートされ続ける研究分野であり、現代社会を考える上でますます重要な分野になっていると言える。本書では、メディア論における近年の新たな動向や、メディア理論の歴史的な系譜を現代的な視点で整理し直し、さらにメディアの実践を横断的にとらえて論じることを試みた。これまでになかったメディア論の入門書である。

特集 さんしゃびと

これまでこの『校友さんしゃ』にもたびたびご登場いただいている産社教員の石田賀奈子先生ですが、実は石田先生ご自身も産社校友（卒業生）です。
今回の特集「さんしゃびと」では、学生と教員、2つの立場から産社に「縁」を持つ石田先生を取り上げます。



立命館大学 産業社会学部准教授

(1999年産社卒業)

石田 賀奈子 (いしだ かなこ) 先生

1999年3月立命館大学産業社会学部卒業。その後、4年間の児童養護施設指導員経験を経て大学院へ。2005年3月関西学院大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程修了。2008年3月同博士後期課程単位取得満期退学。神戸学院大学総合リハビリテーション学部講師を経て、2017年4月に立命館大学産業社会学部現在任社会学科人間福祉専攻准教授着任。専学校教員のろろ者の夫、子ども二人の4人家族。

■産社入學までの道のり

京都市の隣亀岡市の出身です。市街地から10キロほど離れた中山間部で、集落の大人も子どももみんな顔なじみ、学校は保育所・小学校・中学校通して1クラスのみのみつくりクラスの顔ぶれは変わらない！という環境で育ちました。実家周囲は自然に恵まれていてというより自然の中にありますが、幼少期は、外で遊ぶ分遊んだことよりも、祖父が趣味で収集していた文学全集や自然科学系図鑑などをじっくり読んでいた記憶のほうが鮮明です。(あまりに田舎過ぎて、一緒に遊ぶ同世代の友人すら隣近所にはいなかったのです。)

高校は府立南丹高校に進みました。学区外からの進学だったので、通学に時間がかかりました。当時は普通科のほか、商業科やⅡ類進学コースがあり、目指す道も様々な友人に恵まれた3年間でした。進路選択が近づくにつれ、文系の学部に進むなら何か手に職をつけたいと思うようになり、国家資格や教職免許の資格が取れる大学を調べましたが、その中でも社会福祉士に関心を持ちました。そして、京滋の大学で社会福祉を学ぶことのできる学校をいくつか受験し、「縁」のあった立命館産社に入学することになった次第です。

■産社での学生時代

1995年産社に入学しました。基礎演習のクラスに同じ高校の同級生松田昌也くんがいてくれたので、こんなに人が多い学校で始めは不安でしたが、何とかなじむことができました。高校よりさらに遠くまで通うことになり、正課外の活動には参加しませんでした。が、近畿聴覚障害学生懇談会や、その活動が基盤となる全日本ろう学生懇談会の活動には参加していました。ろう者の幼馴染がいたこともあって、手話を学び、聴覚障害学生の通訳やノートテイカーなども担いました。立命館の他学部の講義や他大学の講義にも通訳者として出ていました。現在は夫別の大学の学生でした！)となったひとことも、この活動の場での出会いでした。

産社の先生に対する思いとして、まずは忘れもしない基礎演習Wクラスです。春は國廣先生、秋は中村正先生が「指導してください」した。中村正先生とは、大学を卒業した後も児童虐待やDV被害者支援の臨床経験を重ねていく際にも「助言を受け続けました。今は同僚となったのはとても不思議な感覚です。そして、学生時代といえは、故・鈴木良先生のことを懐かしく思い出します。社会史の講義に興味を持ち、わからないながらもまじめに受けているうちに顔を覚えてくださったのです。学内で会うといつも声をかけていただき、そのまま午後いっぱい京都市内のフィールドワークにお誘いいただき、一緒に街歩きをさせていただきました。鈴木先生の「研究のお話を伺いながら、産社の学びの基盤とも言えるまち、コミュニティ、くらしの現場を(随分背伸びが必要でしたが...)研究者の視点で観察することができたのは貴重な経験でした。3・4回生のゼミは芝田英昭先生(2009年まで産社教授、現立教大学)のゼミでした。社会福祉士課程の友人とともに学びながら、社会福祉に對しもっと深く学びたいという気持ちが高まりました。学部卒業後は、そのまま大学院に進みたいという気持ちもありましたが、経済的な事情もあり、まずは大学を卒業してソーシヤルワーカーとして就職することにしました。卒業後は縁あつて児童養護施設の指導員になり、大阪市内の児童養護施設に住み込み、文字通り「寝食を共にする専門家」として仕事を始めました。

■産社卒業後、関西学院大学大学院入學まで

私が指導員になった1999年は、その数年前の阪神・淡路大震災が契機となり人々のくらしに関する社会の構造的な問題や課題がいよいよ顕在化した時期にあたります。児童虐待も深刻な社会問題として認識が深まり、2000年には児童虐待の防止等に関する法律ができました。児童養護施設で、子どもたちとともに生活しながら、社会的養護で暮らす子どもたちを取り巻く環境の厳しさや課題を痛感する日々でした。特に虐待事例への対応について問題意識を深めていったのですが、2001年に児童養護施設から家族のもとに外泊していた男児が虐待により命を落とした事件は、社会的な衝撃にくわえ、私にとっても自身の専門性の不確かさについて深く考えさせられる出来事になりました。

虐待で命を落とす子どもを無くしたい、不適切な養育スキルしかない大人を支援したい、そして子どもたちが「私は信頼できる大人」によって大切にされ、守られ、大きくなって「さ」と感じながら大人になる仕組みを、社会のなかでどのように確保していくことができるかを考えたいと考え、大学院への進学を決意しました。本当はこの時、母校である立命館の社会学研究科に戻りたかったのですが、(誠に残念ながら)中村正先生が海外での研究期間中不在...。学びたいのは、今進みたいんだけど...と悩んでいたところ、産社の先輩から、ソーシヤルワークを学ぶなら、関西学院大学大学院社会学研究科で学びなさいと勧めていただき、社会人を4年経験した後大学院修士課程に進みました。関学上ヶ原キャンパス(兵庫県西宮市)は、一面の芝生に赤屋根の洋風建築など素晴らしいお洒落な景観で知られていますが、私は非常勤で福祉の仕事しながら通学していましたが、ゆくりとその雰囲気を楽しみむような余裕はありませんでした。ただし、学部での学びや社会での実務経験を通して持つようになった問いを、大学院での授業やゼミの先生や仲間と議論しつつ、先行研究や自分自身のリサーチを用いて実証的に明らかにしていくことは非常に有意義でした。また、ソーシヤルワーカーとしての自分と、大学院生としての自分を切り替えるのは大変でもありましたが、「今現場で起きていることを大切にしながら研究を進めることができたのは幸運だったと思います。当時、社会福祉研究業界では「制度・政策の立命、方法論の関学」と称されていました。芝野松次郎先生の研究室に所属し、武田建先生や故・荒川義子先生からケースワークを指導いただきました。

■大学教員に、そして再び産社に

大学院修了後、できれば再び福祉の現場に戻りたいと考えていたのですが、当時は(今も?)そうしたキャリアパスが成立しにくい環境もあり、研究者として社会福祉にかかわっていく道を選びました。2009年に神戸学院大学の講師になり、社会福祉士を目指す学生の教育に携わりました。7年間に社会

福祉士として多くの学生を社会に送りだしました。そして、恩師でもある櫻谷眞理子先生の後任の公募人事で採用され、2017年4月に母校・産社に准教授として着任しました。

現在の専門分野は、社会福祉士子ども家庭福祉領域におけるソーシヤルワークです。直近では「児童養護施設におけるファミリー・ソーシヤルワーク実践に関する研究」に取り組んでいます。児童虐待の増加、家族機能の低下が著しい日本社会において、2016年には児童福祉法において、社会的養護は施設中心の在り方から、里親や養子縁組など、より家庭的な環境で提供する方向へと舵がとられました。そのなかで、児童養護施設に求められる機能と役割はこれまでになかった新たな役割へとシフトしつつあります。この研究では児童養護施設における実証的な根拠に基づく社会福祉理論の実践への応用を目指しています。児童養護施設の現場では、子どもや家族を支援するソーシヤルワークの未整備ゆえに制度やサービスの網の目からこぼれ落ちてきた人々と出会うことが少なくないため、自分の未熟さを突き付けられることの連続です。しかし、バイステックのケースワークの原則に立ち返り、受容と共感を大切にしながら丁寧な一人一人の生い立ち、今の生きづらさ、そしてこれからに寄り添えるように心がけ、少しでも子どもたちの最善に資することができるような教育・研究成果を示し続けたいと思っています。

■母校立命館、そして産社への思い

学部生、そして教員として母校、そして産社に縁を持っていること、とても光栄に思いますし、また、様々な偶然が重なってここに今自分がいることの恐れ多さを感じています。今は近くに住んでいるので、土日休日などは2人の子とも一緒にキャンパスに來ています。私の両親は、郵便局で働いて私を育ててくれましたが、自分自身、両親の仕事場について行くことも多く、自分の職業の実際を身近で教えてくれました。自分も子どもには同じようにしていきたいと思っているのも、子どもたちにキャンパスに親しんでほしい理由の一つです。

子どもたちは、本学の地域連携課と学生サークルが運営する農園きぬがさ農園にもお世話になっており、社会の中で子育てをさせていただいているという感覚で子どもを育てることができると感じています。卒業生の皆さんは、衣笠キャンパスといえは湿度の高さを思い出されるのではないのでしょうか。木々が生い茂り、湿度高めな衣笠キャンパスは子どもたちが大好きなきのこがたくさん生えてきます。希少なきのこも多く、休みの日は早朝からキャンパスを走り回る子どもに付き合われています。(石田先生「自身の学生時代と今の学生との違いをお感じになることはありますか?」との問いに対して...世界的に社会環境の格差が広がっており、貧困や虐待などの社会問題は以前より深まっています。日本においても同様です。本大学の学生の場合それらに対する感覚が以前のように鋭敏ではなくなってきたように感じられており、少しだけ懸念を抱いています。インクルーシブな社会形成を担う市民になるためにも、学生たちには産社はじめ立命館での学びを通して、多様な社会の様々な側面に対する観察眼を養ってほしいと願っていますし、その支援ができるように一層研究に励んでいきたいと思っています。

現在、社会学研究科に在籍する

現役大学 生ご紹介!

共通する質問事項

- 1 名前(ニックネーム)
- 2 現在の研究テーマ
- 3 著書(共著・編著等含む)・論文等
- 4 所属学会
- 5 衣笠キャンパスで思い出の場所は?
- 6 一番記憶に残る講義・先生は?その理由も
- 7 卒業後、立命館(産社)を意欲した出来事・得た気づき・人とのつながりについて
- 8 すばり、来年度の抱負を一言で



- 1 三谷舞さん
- 2 軟式ボウルの歴史 社会学・スポーツの発展における用具(おもむき)
- 3 スポーツの都市化が近代スポーツに与えるインパクトとは?アーバン・スポーツ化されたベースボール型競技の歴史を考察。文化社会学の考察。立命館大学人文学部研究紀要126号
- 4 日本スポーツ社会学会、日本体育・スポーツ健康学会、日本社会学会
- 5 原谷フワンド。スポーツ選抜で学部に入學したの4年間の大半をフワンドで過ごしました。楽しい思い出も、苦い思い出も、全てが語まっています。
- 6 スポーツ社会学山下高行先生。スポーツ社会学専攻だった私は、スポーツをするこぼりか考えていたが、社会学を分析するのを学びました。ヒトオを見る時間があり、眠気や戦いながら(負けながら)受けた記憶があります。
- 7 今でも現役でソフトボールを続けており、日本各地へと遠征で行った際に、立命館・産社の先輩方が各地にあらわれ、声をかけていただくことがありました。ネットワークの広さに驚くばかりです。
- 8 博士号取得!



- 1 H.K.
- 2 まだ修士1年生なので、仮の研究テーマになりますが、「フェミニズム運動におけるアイデンティティの承認・アクセス・ホネット」の承認論からアプローチを想定しています。事例としては日韓のフェミニズム運動を取り扱いたいと思います。
- 3 思い出の場所は大きく2つあります。一つは、産社といえは社会学部のラウンジです。コロナの影響で最近のラウンジは静かになりましたが、昔の騒がしかったラウンジが懐かしいです。二つ目は、研究館です。院生になってからほぼ毎日來ますので、卒業したら色々思い出の場所になるそうです。
- 4 日暮雅夫先生の社会思想です。この授業をきっかけに今の研究を続けたいと思ったからです。また、学部のゼミから大学院のゼミまで長い間お世話になっており、その中で人生の中で一番記憶に残る先生に会ったと思います。
- 5 思い出の場所は大きく2つあります。一つは、産社といえは社会学部のラウンジです。コロナの影響で最近のラウンジは静かになりましたが、昔の騒がしかったラウンジが懐かしいです。二つ目は、研究館です。院生になってからほぼ毎日來ますので、卒業したら色々思い出の場所になるそうです。
- 6 日暮雅夫先生の社会思想です。この授業をきっかけに今の研究を続けたいと思ったからです。また、学部のゼミから大学院のゼミまで長い間お世話になっており、その中で人生の中で一番記憶に残る先生に会ったと思います。
- 7 様々な特性を持っている人々が多かったです。また、立命館の学生なので、実際に感じたことはあまりありませんが、立命館は本当にたくさんの人たちが集まるところだと思います。
- 8 修士論文を完成させて、現在色々迷い道にありますが、それを乗り越えて良い修士論文を完成することが来年の目標です。



- 1 しあ
- 2 戦後日本の農村について研究を行っています。具体的には、全国の農村の婦人会女性と彼女らが参加した生活改善運動について社会運動に着目し、両者が互いにどう影響し合っていたのかを婦人会誌や手記などのメディアを通して明らかにしていくことを目的に研究を進めています。
- 3 以学館ラウンジ。空きコマや放課後に仲の良い友達と集まって趣味について話しています。
- 4 グローバルメディア論日高敏之先生。1980年代から2000年代の邦画・洋画・テレビドラマなどのメディア分析から見える社会背景や思想についての考察が興味深く、毎回来学しています。
- 5 大学院で研究を進める中で、大学時代に得た学びが生かされた実感する際に嬉しく感じます。
- 6 素直、正直な心で生きる!



- 1 ひろこ
- 2 小学校教員の貧困認識や役割意識について研究しています。近年、子どもの貧困が社会的課題として認識されるようになり、小学校を含めた教育現場でも子どもへの支援の重要性が高まっています。しかし、実際には貧困だけではなく、外国籍児童の増加や発達障害など支援を必要とする児童も増加しています。子どもが抱えている困りごとをどのように認識しているのか、その実態を明らかにすることと学校の柔軟な在り方を検討しています。
- 3 研究館です。M1の春学期はコロナのためオンライン授業だったので、大学院に入學して初めて大学に行ったのは秋学期でした。研究館で初めて院生同士やっとな話したことがとても嬉しかったです。
- 4 命に何となく入学した私。慣れない日々、ストレスを抱え、1年生の頃は大学を辞めることばかり考えていました。唯一、基礎演習で加藤先生から与えられた課題をこなすこと、そして先生や同級生からコメントを貰うことが楽しく、気が付けば大学生活を楽しんでいるに至っていました。時間をかけて批判的に考えることの楽しさを教えて頂きました。
- 5 健康第一!自分のペースを大切に!
- 6 健康第一!自分のペースを大切に!



- 1 大月隆生
- 2 異性間の性的同意に関する経験的研究
- 3 オンライン上での大規模遠隔授業の授業データを用いた報告・コンテンツ制作・授業運営・学生動向の視点から
- 4 以学館前のベンチ。大きな木の下にあって気持ち良くくつろぐ季節でも1日中座っていました。授業が終わって以学館から出てくる友人が少しづつ集まってきて、気が付けば井戸端会議の機になることも。
- 5 基礎演習(加藤雅俊先生)。高校を不登校のまま卒業し、たまたま出願した立
- 6 命に何となく入学した私。慣れない日々、ストレスを抱え、1年生の頃は大学を辞めることばかり考えていました。唯一、基礎演習で加藤先生から与えられた課題をこなすこと、そして先生や同級生からコメントを貰うことが楽しく、気が付けば大学生活を楽しんでいるに至っていました。時間をかけて批判的に考えることの楽しさを教えて頂きました。
- 7 健康第一!自分のペースを大切に!
- 8 健康第一!自分のペースを大切に!

以学館で起きた珍事件や以学館あるある!

●4階南側の大教室から見る空や景色が、大パノラマ。朝焼け、夏の青空、雪景色、夜景...いろんな景色を見たいのために、用もないのに4階大教室へ通い詰めた。

●以学館のフロアがややこしくて、4月は必ず1回生が階段の踊り場で彷徨っているの、週に3回くらいは道案内をしていました。

●新しい印刷機になってから、出力しようとしたら部数が10になっていて、20ページ両面印刷が10セット出てきたこと。

●一階のフロアに女性トイレが多いこと。事務室からすぐには女子トイレがあるのに、なぜ男性トイレは奥にしかないのかと思っていた。

首都圏在住の立命館校友も多く利用しているという「築地さらしなの里」、是非お近くにお越しの折は訪ねてみてください。

産社校友 の お店紹介



信州更科蕎麦処 築地さらしなの里

☎ 03-3541-7343

<https://sarashinanosato.com/>

〒104-0045 東京都中央区築地3-3-9

(東京メトロ日比谷線「築地駅」徒歩1分)
同有楽町線「新富町駅」徒歩3分



営業時間
<月～金>
11:00 - 22:00
(L.O.21:30)
<土>
11:00 - 15:00

※営業時間、定休などは、お店のホームページでもご確認ください。

東京都中央区築地3丁目、築地本願寺や聖路加国際病院にほど近い大通り沿いにある老舗の日本蕎麦屋、築地さらしなの里。この4代目店主赤塚滋行さんは、1997年卒業の産社校友です。

赤塚さんは、「きつと将来は店を継ぐだろうな。大学の間だけでも東京ではない所に行ってみよう」と思い立ち、立命館大学の入試パンフを入手。何事にも積極的に動いている学校の姿勢と、女子学生が多く在籍し明るい雰囲気包まれている産社に魅力を感じ、入学されたそうです。



故林堅太郎先生とのやり取りや産社学生時代の思い出等については、産社校友会ホームページ「さんしゃ」とNo.91*に詳しくご紹介しています。

*<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/ob/file/0091.html>



訃報

林 堅太郎 先生(2021年7月11日ご逝去)

林堅太郎先生がご逝去されました。享年74歳。林先生は京都大学経済学部卒業後、同大学院経済学研究科に進まれ1974年3月に同博士課程を単位取得退学、その年の4月に立命館大学産業社会学部に助教授として着任され、1987年4月に教授就任、長らく産社で教鞭を取られたほか、立命館アジア太平洋大学副学長、学校法人立命館常務理事(初等・中等教育担当)などの学園役職も歴任されました。

長身の、しかしながら飄々とした親しみやすいお人柄は、学生のみならず教職員からも広く深く慕われており、ご退職後に何度も特別ゲストとしてご参加いただいた産社校友会の交流会企画では、常に人垣に囲まれ朗らかなご様子でいらっしゃいました。

あまりにも早いお別れ残念でなりません。心から哀悼の意を表します。

2021年度 退職教員のお知らせ

2021年度、産社では小泉秀昭先生が定年退職を迎えられます。小泉先生は2005年4月に産社に教授として着任、広告論がご専門で広告コミュニケーションに関わる教育、研究を実施されてきました。退職記念講義については未定ですので、あらためて産社校友会ホームページ等でお知らせします。

なお、2022年度以降、小泉先生は特別任用教授として引き続き産社の教壇に立たれる予定です。

随時更新中! 今後の情報もweb、SNSでcheck!

産業社会学部校友会公式ホームページ

産社校友会

検索



<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/>

産業社会学部校友会公式 facebook

@sanshaalumni で検索

<https://www.facebook.com/sanshaalumni/>



産業社会学部 校友会公式 Instagram



産業社会学部 校友会公式 LINE

ID : @wli8886c



「校友さんしゃ」(立命館大学産業社会学部校友会会報)

2022年1月1日発行 第56号

<発行人>古谷 寛

<編集人>立命館大学産業社会学部校友会広報担当

(野村慶人、田中嘉欧利、加島美和および事務局)

<発行所>立命館大学産業社会学部校友会

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL: 075-465-8185(直)

FAX: 075-465-8196

E-mail: reunion@st.ritsumei.ac.jp

WEB: <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ss/reunion>

▽今回の特集さんしゃびとに掲載した産社石田賀奈子先生のインタビューは、例年よりだいぶはやい梅雨の晴れ間であった5月のとある日曜日に、ウェブ会議システムを用いて実施しました。石田先生の背後には晴れ渡った青空と緑豊かな衣笠山。「ああ、立命館出身者らしくバーチャル背景にもこだわっておられるのだな」と思った瞬間、背景の奥のほうに小さく映っていた人影が先生のほうにぐんぐん近づいてきました。そして振り返り向く先生。

▽勤の良い方はもうお分かりですね、そうです、石田先生の背景はバーチャルではなくリアル! 石田先生はお子さんたちと一緒に衣笠キャンパスまで出向き、対応してくださったのです。時折お子さんからの「植物発見」報告が入るインタビュー、とても愉快で心温まる時間になりました。(N)

編集室より